

明治35年8月台風

明治35(1902)年8月7日～12日

■気象の概況

8月2日、フィリピン・ルソン島東方に現れた台風は発達しながら北西へ進みました。その後、台湾島東部で進路を北西に転じ、8日午前6時には沖縄県石垣島の南西を経て東シナ海に入り、北東に向きを変えました。10日午後2時熊本付近に上陸、午後10時には広島付近から中国地方を縦断します。11日午前6時に鳥取県東部から日本海へ出ました。この間、石垣島で最大風速63・4m/秒、熊本で55・3m/秒という強烈な暴風雨となりました。

■被害の状況

九州、中国地方を中心に風水害に見舞われ、中国地方では山陽線、播但鉄道(現播但線)が不通となりました。広島県では安芸郡を中心に65人が死亡し、家屋の流失が62戸、山崩れが7か所発生しました。芸備日日新聞は、暴風雨によって死者90人(うち倉橋島で34人)、家屋全壊189戸、家屋半壊222戸、家屋流失134戸の大被害が出たと報じています。(8月12日付)

山口県では洪水で錦川の橋梁が落ち、家屋145戸が流失。岩国、横山、藤河、愛宕の各町村(現岩国市)で24人が水流にのまれて亡くなりました。

防長新聞によると、8月8日から13日にかけて「本郷村の大損害」「一昨日の暴風雨」「岩国水害第一電」「岩国水害第二電」という見出しが続きます。その後も月内まで山口県は吉敷郡、大島郡、玖珂郡一帯に被害が出たことが報じられています。鉄道や船舶も被害に遭いました。

この年は全国的に異常気象が相次ぎました。日外アソシエーツ編集部編「台風・気象災害全史」によると、北海道、東北、北陸各地方が冷害に見舞われたほか、1月は千葉、神奈川両県で竜巻が発生。家屋被害だけでなく死者も出ました。竜巻は3月にも千葉県などで発生しました。青森、北海道は寒波に見舞われ、行軍訓練中の陸軍歩兵第五連隊が青森県八甲田山の山中で遭難し、119人の死者を出しています。

また9月には「足尾台風」が襲来しました。国土交通省日光砂防事務所(栃木県)の「日光詩話」によると、栃木県全県に被害をもたらし、大谷川では水源部で崩壊が多発して橋や人家100戸余りが流出しました。死者・行方不明者は219人に上り、家屋の全半壊は8600戸を超えました。貴重な文化財も多数流出し、松尾芭蕉や明治天皇も立ち寄った庭園「大日堂」もその一つで、現在は「大日堂跡として護岸などが整備され、散策路になっています。